

情勢報告（令和2年5月分）

中央東農業振興センター 嶺北農業改良普及所

地域全体での酒米のブランド化を目指して～早生新品種‘土佐麗’の育苗確認～



順調に生育している様子を
確認！

5月8日、酒米早生新品種‘土佐麗’の育苗状況を確認しました。嶺北地域は県内有数の酒米産地として知られ、主に中生品種‘吟の夢’が栽培されています。一方、高標高地域では、低温により登熟不良となる危険性があります。また、大規模水稻農家では作業分散のため、作期の異なる早生品種の導入が望まれています。

昨年‘土佐麗’の実証試験を行い、収量、品質面で有望と判断されました。そこで本年度、玄米2.4t(作付面積80～90a)を生産し、「土佐酒造」協力のもと試験醸造を実施する予定です。

今後、普及所は高品質な酒米生産について栽培指導するとともに、地域に合わせた栽培方法(施肥管理等)の確立を目指します。

「れいほく八菜」に親しもう ～嶺北地域小学校へ野菜苗の供給～



「れいほく八菜」栽培はまか
せて！と頼ましい先生方

5月8日、嶺北地域の小学校など5校に「れいほく八菜」の苗を供給しました。

この取組は、次代を担う子供たちが、「れいほく八菜」の栽培に触れ、地域の農業への関心を高めることを目的に、嶺北地域の農林業関係機関、団体等で組織する「嶺北地域農林業振興連絡協議会農業部会」が実施しています。普及所は取組成果を検討するため、各校と情報共有など連携することを確認しました。

令和2年度は、「米ナス」「ミニトマト」「彩りピーマン」「シシトウ」の苗を配布し、学校農園等にて地域農業を学ぶ教材として栽培されます。

今後も将来の担い手確保につながる地域の農業振興に関する取組を支援します。

水稻の生育ステージ予測 ～苗質調査講習会開催～



普及指導員の講義を
熱心に聞く生産者

5月7日、本山町特産品ブランド化推進協議会は、水稻の苗質調査の講習会を開催しました。

現在、本山町が設置している100台の水田センサを活用し、水稻の生育ステージ予測が可能になれば、穂肥や病虫害防除の適期がわかります。そこで、普及所は苗質調査講習会を開催し、生産者21名に対して、移植時の苗の葉齢を生産者自身で調査できるように説明しました。生産者からは「どれが第一葉か？」など質問が多くされ、意欲的な姿勢が見られました。

今後も普及所は、水田センサの有効活用と生育ステージ予測実現に向けて調査を続けます。

新たな加工品の開発に向けて！ ～（一財）本山町農業公社 加工の会～



熱心に打合せする公社職員

5月12日、（一財）本山町農業公社において公社職員など12名による、第2回加工の会が開催されました。

この会では、これまで継続して商品開発している『おにぎり』の試食や『肉味噌』のパッケージデザイン、『ヤーコンジャム』の開発に向けた原価計算、稲作の副産物を利用した粃殻固形燃料『モミガライト』の販売方法、インターネットを活用した販売拡大等について検討しました。

普及所からは、それぞれの商品についての評価やわかりやすいPOPの作成、ネット販売での在庫管理・クレーム対応等の注意点について助言しました。

普及所では、今後も（一財）本山町農業公社の新たな加工品開発に向け支援します。